

【戦略6】「やまがた森林ノミクス」の推進（その1）

県民総参加で森林資源を利活用する「やまがた森林ノミクス」を推進し、林業・木材産業の収益性の向上を目指していく。

(2) 木材生産・加工 ～木を育て・使い・再び植える「緑の循環システム」の構築～

① 再造林推進プロジェクト

【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
再造林率	33% (H27)	44% (H29)	70%	100%
再造林支援の基金制度創設	—	制度創設 (H29)	制度運用	制度運用

【30年度の取組み】

- 再造林率100%達成に向け、皆伐・再造林の推進のための課題と対策について検討するため、行政機関、関係事業者で構成する「山形県再造林推進会議」を開催(9/19)
- 平成30年3月に作成した手引き、ガイドラインに則して、皆伐後の再造林が適正かつ計画的に実施されるよう、伐採事業者と造林事業者に対し、「皆伐・更新計画」を自主的に作成し、連携して「皆伐・再造林」を実行するよう指導
- 平成29年12月に民間事業者が設立した「山形県再造林推進機構」と連携し、補助率100%（国・県90%、機構の基金10%相当）の再造林支援を実施



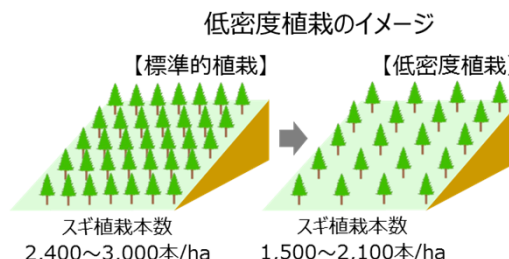
「山形県再造林推進会議」の開催



県が作成した手引き

<今後の取組み予定>

- 再造林の低コスト化を図るため低密度植栽技術の確立に向けた実証の実施[新]
- 苗木生産施設整備への支援及び苗木生産技術向上と新規参加者の育成を図るための種苗生産者講習会の実施



昨年度に実施した「種苗生産者講習会」

【評価と課題】

- 「山形県再造林推進機構」が平成30年度から事業者の協力金による基金制度を活用した再造林支援を開始したことにより、官民一体となった再造林の支援体制が整備された
- 「山形県再造林推進機構」と連携し、再造林の経費支援を行うとともに、森林所有者等に対し「伐ったら植える」の合言葉のもと再造林が着実に進むよう周知を行っていくことが必要
- 伐採事業者と森林組合等の造林事業者が情報の共有を図り、伐採前の段階で、連携して森林所有者に再造林を働きかける取組みを促進することが必要
- 森林経営計画の認定や伐採届の受理などの業務を担う市町村と連携し、事業者への再造林の指導を強化していくことが必要



【戦略6】「やまがた森林ノミクス」の推進 (その2)

(2) 木材生産・加工～木を育て・使い・再び植える「緑の循環システム」の構築～

② 県産木材安定供給プロジェクト

【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
木材生産量	36万m ³ (H27)	49万m ³ (H29)	55万m ³	60万m ³
高性能林業機械保有台数	82台 (H26)	102台 (H28)	138台	150台
林内路網整備	117km (H27)	113km (H29)	143km	152km
森林管理認証の取得団体数(累計)	—	2件 (H29)	3件	5件
JAS製品出荷量	28千m ³ (H27)	60千m ³ (H29)	76千m ³	85千m ³

【30年度の主な取組み】

○施業の集約化の推進

- ・現行の間伐主体の森林経営から主伐主体の計画への変更を促進するため、森林組合等を訪問し直接指導を実施(7月～8月、13事業体)

○林内路網の整備促進

- ・林道開設6路線、林道改良2路線、林業専用道4路線(うち新規開設1路線を計画)について着手予定
- ・森林土木職員の技術向上を図るため路網作設研修会を実施

○高性能林業機械の導入推進

- ・国の補助事業等を活用し、事業者への導入を支援(購入6台(5事業体)・貸付5台(5事業体))

○間伐の推進

- ・事業者主体から提出された間伐の事前計画書に基づき、現地指導を実施

○県産木材の流通拡大

- ・県産木材加工流通施設の整備を支援しラミナ製造工場が完成
- ・原木生産団体の県森連、木産協、森林ノ整備協からのヒアリングを実施
- ・各総合支庁による原木販売に関する研修等を実施
- ・国有林、県による原木生産拡大に向けた連絡会議を開催



高性能林業機械の導入

○森林認証取得の促進

- ・選手村ビレッジプラザ木材伐採式に関連して森林管理認証制度をPR

○県産木製品の高付加価値化の推進

- ・JAS認証取得の支援を実施
- ・次年度以降にJAS認証取得を希望する事業者について把握するため聞き取り調査を実施中

<今後の取組み予定>

○施業の集約化の推進

- ・森林整備活動支援交付金等の活用による森林の境界明確化の推進

○林内路網の整備促進

- ・市町村との連携による新規路線の具体的な計画の検討

○高性能林業機械の導入促進に向けた普及啓発等

- ・高性能林業機械導入促進に向けた普及啓発や、次年度以降の機械導入計画の把握

○間伐の推進

- ・森林経営計画に基づく路網整備と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムによる搬出間伐の促進

○県産木材の流通拡大

- ・原木生産団体との意見交換会の実施
- ・各総合支庁による原木の生産流通に関する必要な支援の実施
- ・国有林、県、原木生産団体による原木調達に特化した連絡調整会議の実施

○森林認証取得の促進

- ・森林管理認証制度の普及、PR活動の実施

○県産木材製品の高付加価値化の推進

- ・県JAS協議会等との連携による認証取得に向けた現地指導を実施
- ・JAS認証取得促進に向けた普及啓発や、次年度以降のJAS認証取得事業者の把握

【評価と課題】

- 森林経営計画の策定や高性能林業機械の導入等により、森林組合等の事業者の素材生産体制は強化されつつあるが、県産木材の生産拡大を進めるためには、施業の低コスト化を一層推進するとともに、間伐主体の森林経営から主伐主体の森林経営へ方向転換を図ることが必要

- 県産木材や県産木材製品の高付加価値化に向けて、森林管理認証やJAS認証製材工場を着実に増加させ、非住宅分野への木材利用を推進していくことが必要